

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200627		
法人名	医療法人社団 小羊会		
事業所名	グループホーム横戸		
所在地	千葉県千葉市花見川区横戸町1123-4		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成25年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者1人1人の現状にあった支援ができるようように介護計画を立て、サービスの提供をしている。 ・入居者の生命または、身体を保護する為、身体拘束、入居者の行動を制限しない介護に努めている ・医療、福祉、行政との連携を図り、入居者がより良い多くの支援を受けれるように支援する。 ・入居者とその家族がより良い関係を継続できるように支援に努めている。 ・アットホームなホームで入居者が毎日笑顔で安全に生活できるように努めている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当グループホームは、医療法人社団 小羊会が開設した第一号のグループホームで、同じ敷地内にあるクリニックと連携し、「入居者一人ひとりが体力の低下を補いつつ持てる力を存分に発揮するよう、また自信を持って感情豊かに暮らせるよう援助すること」を目指している。職員も入居者本位の支援に徹しており、毎月の生活状況などについて、詳しく家族に報告し、家族とも信頼関係を築いている。入居者家族アンケートでも職員が元気で明るく、やさしい、細かく気配りしてくれるなど高い評価を得ている。母体法人のヘルパー養成講座の実習生の受け入れなどを実施し人材の確保と育成を図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	* 自信を持って感情豊かに暮らせるよう* 体力の低下を補いつつ持っている力を存分に発揮できるよう* 地域の一住民として社会参加できるようという項目の理念を掲げ職員同士で共有し支援を行っている。	当ホームの理念は設立時、母体の法人の基本理念の下に、管理者、職員が話し合っ作り上げたもので、職員同士お互いに現状のケアが理念にかなっているかどうかを常に戒めあいながら実践している。	開設 10年を期に新しい理念作りに取り組んでいるが、地域密着型サービスの意義を踏まえた簡潔でわかりやすい理念の作成を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には未加入だが、近隣の農家の方との交流を持ちお野菜のやり取りなど行ったり、近隣にある店に買い物にも出かけている。	近隣農家などとの付き合いに加え、介護相談の受け入れ、地域の民生委員のグループの見学の受け入れなど地域との日常的な交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看板にも、介護相談の受け入れを掲示し、実際に介護保険についてや、グループホームの説明等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族の意見要望を聞いたり、また行事に当てご家族の参加を促し行っている。	運営推進会議は民生委員、介護相談員、入居者家族が参加して、本年度は 3回開催している。運営推進会議に併せて花火大会などを実施し、入居者家族の参加の増加、意見要望の確認に努め、サービス向上に活かしている。	内容の濃い運営をしているので、出来れば運営推進会議の開催回数をもう少し増やすための取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千葉市介護相談員の受け入れも行いアドバイス等聞き支援に役立っている。また、グループホーム連絡会にも加入し市との交流会にも参加している。	介護相談員との訪問時の情報交換に加え、グループホーム連絡会、交流会、研修会には必ず出席し、市の担当者との交流に努めている。また市へはボランティアの協力要請なども行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、正しく理解するためにもまた忘れない為にも、法人内でも身体拘束について勉強会を開催している。市でも行っている研修にも職員を参加させるようにしている。	身体拘束はしないとの方針で、職員の理解を深めるため、月例会議の後勉強会を実施したり、市の研修会に積極的に参加して、その受講内容を職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会でも虐待について取り上げ勉強会を行っている。また、小さなアザにも注意し視線を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者。職員は法人内での勉強会で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時はご家族の納得いくまで説明を行い理解を得て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・ご家族のコミュニケーションを日々大切にしている。日々の生活から入居者の要望を感じとるようにし、またご家族については面会時に意見交換をまめに行い運営に反映させるようにしている。	毎月の入居者の生活状況について、個人別に詳しく家族に報告し、面会時家族が意見・要望を出しやすいよう心がけている。出された意見は運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回ある全体会議やカンファレンス、日々の業務中にも意見交換を行っている。	毎月の全体会議には、全員が出席して意見交換をしている。会議後には参加者全員が会議内容をレポートするが、その際追加意見などがあれば、追記して提出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与・昇給時には必ず個々でも評価を記入し提出している。また、一緒に個人面談を行っている。また、去年の反省をし今年の目標を掲げ向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はもちろん、外部の研修にも出来る限り参加できるよう働きかけている。また、自分自身のスキルアップの為にケアマネ・介護福祉士の試験に臨む職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ連絡会に加入し出来る限り交流会には参加し交流に努めるようにしている。また、他事業所との入居希望者の紹介等も互い情報交換にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅にも面接にも行き、ご本人の要望を伺っている。また、ホームも見学して頂き少しでも不安を取り除けるようにじっくりとお話をお伺いしている。ご家族・ケアマネ・ソーシャルワーカーにも細かい情報を頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時面接にて、ご家族の困っていた事、不安な事をお伺いしサービスの支援について話し合いを行っている。また、ご家族が相談しやすい環境・雰囲気作りに努め信頼作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、何が必要なのかを見極め対応に努めている。ご家族にもご相談し行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築き、入居者個々のできる事・出来ない事を見極め、できない事をサポートするように努め暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時には、ご家族の力がなければ、良い介護に結びつかない事をお話し理解して頂き運営推進会議・外出時・行事のお手伝いをお願いしている。また、現在の御本人の身体の状態も理解して頂く為病院同行もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には、今まで使っていた馴染みのある物も一緒に持って来て頂くようにしている。また、面会しやすいようにホームの雰囲気作りも心掛けている。年賀状や手紙をお友達親戚の方にも送るような支援もしている。	開放的な明るい雰囲気家族や友人の来訪が多い。旧知の方との年賀状や手紙のやり取りや馴染みの商店に好物の宅配を頼む方の支援等もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人入居者の性格も把握し、時には、入居者同士のかけ橋にもなり良い関係性が築けるような支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してしまわれたご家族にも、何かあればご相談にももの事を告げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にどのような暮らしを希望しているのか、ご本人と色々な話をする中からくみ取ることもある。また、日常生活でも本人とゆっくりと話せる時間も設け何を望んでいるのか、どのような意向なのかを把握するように努めている。	ゆっくりと寄り添う時間を設け、会話や表情から何を望んでいるかを把握している。本人の言葉や動作は一日のケース記録にそのまま記録され、職員は共有しケアに生かしている。家族も来訪時に読む事が出来喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式の用紙をご家族に私馴染みの暮らし方や生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の意見交換を大切にし、一人一人の体力、状態を把握し、無理のない過ごし方を提供するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回あるユニット会議では、一人一人のケアのあり方、見直し現状について必ず話し合っている。また、必要があれば日々の中でスタッフ同士話し合い意見交換やアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作っている。	センター方式を独自にアレンジして、生活歴や状態を把握している。毎月のケア会議で職員全員で一人ひとりのケアについて話し合いがされている。状態に変化の有るときはその都度カンファレンスをし現状に即した計画を作り、家族にも同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化にも気が付くよう個別の記録は、その方の言った言葉表情も細かく記載するようにしている。職員間でもすぐに情報共有できるように専用のノートを作り職員同士の情報共有のアイテムの1つとして利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は家族に極力お願いをしているが、家族によってはその時の状況により受診できない方もいる為、ホームで連れていく事もある。その時その時に生まれるニーズに合わせ家族にも相談し連携をとりたい機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市・包括等に相談し地域資源の活用を行っている。実際にオムツ給付も利用している。そして、安全で豊かな暮らしを楽しんで頂くように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院は、本人・ご家族の希望を尊重し決めていただいている。また、必ずスタッフも同行しホームでの現状や状態を医師に告げている。ご家族にも今の身体の現状を知ってもらいたい為、都合が付く時には一緒に受診同行して頂いている。	かかりつけ医の受診は、基本的には家族同行となっているが、精神科の時は職員も同行し状況を説明している。透析が必要な方は隣接の子羊会が運営するクリニックで治療が受けられる。歯科医、眼科医、理学療法士などの来診もあり、医療支援体制は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師による健康チェックを行っている。健康チェック後は、看護師より助言や指示を頂き支援を行っている。日常で小さな気がかりの事も相談し支援に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず、管理者がご家族の了承を得て医師やソーシャルワーカーに家族と一緒に会いムンテラを行い現状について聞き今後について話し合いを行っている。病院関係者との関係づくりにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、入居時に重度化した場合のあり方についての方針の説明を行っている。実際に重度化した時には、早い段階でご家族と再度、話し合いの場を作り定期的に身体の状況を知らせると共に、話し合いもまめに行うようにしている。	重度化や看取りについては契約時本人、家族の意向を聞くとともに、「出来るだけ最後まで支援する」というホームの指針を説明し、どのような終末期を迎えたいかを話し合っている。管理者の指導で職員は看取りに向けた介護を経験し、大きな自信となった。	ホームの職員が看取りに向けての経験を法人内の研修会で発表をした実績もあるので、看取り体制の確立にむけての継続的な取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事のマニュアルをい作成してあり、定期的に会議での議題に上げ再度見直し確認を行うようにしている。法人研修でも消防署に依頼し心肺蘇生法の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜勤を想定した避難訓練を年2回は必ず行い隣のクリニック、目の前の商店や地域住民にも支援の協力をお願いし協力連絡網も作成している。	消防署の指導による夜間想定避難訓練が行われている。入居者も参加して、避難場所や避難経路を確認し、消火器の使用方法も体験している。平屋2棟で避難し易く、スプリンクラーも設置済みである。近隣の商店や住民との協力連絡網を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った言葉かけを心がけている。声のトーン・声の大きさに注意し、方言も活用するなどしている。誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。	言葉掛けは管理者の「介護者は女優になって」の考えで、一人ひとりに向かった言葉掛けが出来ている。年長者として敬い、自己決定を大事にした支援を行っている。排泄時にはひざ掛けを掛けるなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聴く姿勢・受け止める姿勢を持ちご本人が自己決定できるように導きだす支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを大切に支援するように心がけている。起きる時間を遅らせたり、その時間に合わせ食事の提供時間もずらしたりしている。体調等にも配慮し個々の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に訪問して頂きパーマや髪を染めたりおしゃれする事を楽しんでいる。また、外出時、行事の時にはスタッフと一緒に洋服を選びおしゃれをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のリクエストを聞き、リクエストに添った食事をする事もある。温かい食事を提供する為にも時間の配分にも注意し気を付けて調理をしている。また、毎食づつお米を精米し美味しいお米を召し上がって頂けるよう工夫している。また、外食もし違った雰囲気での食事を楽しんで頂くようにしている。	「美味しいものを食べること」が元気の基と考え、リクエストの日を設けている。出来る方は、配膳、下膳、洗物を役割として生き生きと手伝っている。また職員と回転寿司に出かける外食は一番の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士がメニューを考えたものを提供している。また、1日の水分・食事量をチェックする表も作成し活用している。好みの物嫌いな物も把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。必要な方には訪問歯科を利用し口腔ケアを行って頂いている。また、職員に口腔ケアの仕方の指導も行って下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、排泄チェック表に記入しその方の排泄パターンを把握し一人一人に合った支援を行っている。トイレでの排泄が出来るように支援も行いまた、リハビリパンツ使用は極力夜間の使用とし日中は布パンツ+パットでの対応を努めている。	排泄チェック表により、パターンを把握して、トイレでの支援が出来る。日中は布パンツ+パットを使用し、リハビリパンツは夜間使用としている。薬に頼らず、食物繊維の多い食材、運動やお腹のマッサージで自力排便の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼るのではなく、食物繊維の多い食材を名上がっていただいたり、運動やマッサージにも行い普通に排便できる働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方は毎日入浴して頂いている。またお一人で入れる方には、寝る前の入浴も行っている。季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯も楽しんで頂いている。入浴剤も色々な種類を用意し香りや色も楽しんで頂いている。	本人の希望を出来る限り尊重して対応している。浴室は広く、希望者は毎日入浴が出来、自立している方は寝る前にお風呂に入ることも出来る。入浴を拒む方にはチームプレーで声掛けやタイミングを工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	新しんだ布団や枕を持って来て頂いている。週1回のリネン交換を行い清潔に保ち、また天気の良い日には布団も干し安眠して頂けるようにしている。また、冬には湯たんぽを用意し温かくしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のお薬ファイルを作成し情報が分かりやすいようにしている。また、誤薬がないように配薬箱を工夫したり服薬時には職員同士で必ず氏名・日にち・薬の数の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、行事を行い楽しめる場作りを行い、季節の食べ物を提供したりしている。また、家事仕事の好きな方には職員と一緒に家事仕事をして頂いている。買い物に行き、ご自分の好きな食べ物を購入し食べて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買い物に行く支援も行っている。体力的に外出が厳しい方は、ホーム庭にて日光浴をしていただいたりしている。庭にてお茶を飲みくつろぐ時間も提供している。	戸外への外出を心掛けており、車椅子の方も向かいの道の駅などへの買い物に出かけている。年間計画で、家族も参加する行事を企画し好評を得ている。外出困難な方も自然に囲まれた広い庭でお茶の時間を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には少額の金額を持って頂いている。買い物の時や病院受診時の支払いも行う方はいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームに置いてある公衆電話で友達・家族に電話している方もいる。手紙を書いたり年賀状を書いたりしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の椅子以外にも気軽に憩えるようにソファを置いたり畳みの空間もある。また、天気の良い日には庭にあるウッドデッキに出て日光浴できる空間も確保している。	リビングは天井が高く天窓からの日差しが明るい。ホーム内をリニューアルし、壁紙や、家具類が新しくなった。畳コーナーの掘り炬燵で、食事をする方もいる。庭に続くウッドデッキは出入りが自由で、外気浴をしたりお茶を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の部屋だと分かるように居室には表札を付けたり、暖簾をかけたりプライバシーにも配慮するようにしている。気のあった入居者同士で居室での談話も楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた馴染みのある家具・布団等を持って来て頂いたり、好きなように居室を使えるようにしている。	自宅での使い慣れた家具、布団を持ち込んで落ち着いて過ごせる工夫をしている。天気の良い日には布団を干し、毎日の掃除は利用者も手伝い、気持ちよく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・分かる事を職員が把握するよう情報共有をまめに行いできない所の支援に努めできるだけ自立した生活を送れるように支援している。		